

新城市民病院での地域研修を終えて

名古屋第一赤十字病院

この1ヶ月は多くは外来診療で、救急、入院、地域訪問などを適宜させていただいた。その中で自分の勤めている病院や地域との違いに驚く毎日であったように思う。外来診療が主であったが、不定愁訴、common disease、急性疾患など分野を問わず幅広く見せていただいた。研修生活も2年目となり、良くない意味での「慣れ」なのか、病歴聴取もそれなりの状態で検査に移ることが多く、それが半ば当たり前になっていた自分にとっては詳細に問診を取り、考える可能な限りの身体診察を行い、事前確立を定めた上での検査という部分を改めてゼロからご教授いただけたと思う。網羅的に検査を出さないといけない部分があったこれまでの研修を思うと、本当に必要なものに絞って考察を進めていくことが逆に難しく、日々の研鑽の足りなさを痛感した。更に、外来初診のみにとどまらず、気になった患者はどんどん再診を取ってフォローさせていただくことが出来た。当然上級医の先生方のご負担は増えてしまったが、これも自分の中では経験したことのないことで大きく勉強になった。もう一度診察をし、治療効果や指導によってその患者がどの様に変化していったのか、逆にどのような言い方をすればより改善を見込める指導となるのか、ということを考えさせられた。

また、期間中は「何故こうなるのか」「そのエビデンスはどこから来るのか」を指導医や他の先生と一緒に考えさせていただける機会も多かった。総合診療科が総合内科としての機能を持つ当院においては、各疾患を横断的に判断し治療を決定していくことが出来ることも、すぐ専門家にコンサルト出来るしまう自分の病院とは大きく異なるし、逆にコンサルトするにあたってどのようなことを前もって考えておくかに関してはかえって勉強になったと思う。入院患者は多くは無かったが、そのうちの一人は様々な分野での疾患を複数抱えているような患者で初めて包括的な治療を担当することが出来た。先生にも過分の信頼をいただけて、ほぼ全ての入院管理をさせていただいて、そして退院まで完結出来たことは非常に勉強になったし、判明した疾患もほぼ未治療のものが多く、診断基準、初期治療、その後のフォローに関して毎回調べることで力がついたようにも思う。

地域医療も多く経験させていただいた。「出前講座」という形で一般市民の方々に初めて講演をすることが出来た。これまであまり大きな規模でプレゼンをしたことが無かったし、同職種の方々にに対してが多かったので一般の方々に分かりやすいように、と工夫をすることもできた。健康意識の方々に対するお話であったようで、熱心に聞いていただけたのは嬉しかったが、健康意欲がやや低い方々に健康啓発セミナーの様な形で講演を将来する様な時にはどの様にしたらいいのかをシミュレーションすることが出来たのが良かったと思う。

診療所診察、訪問リハビリ、訪問看護、保健施設への見学は臨床研修を開始してからは初めてであった。診療、というよりは地域の方々の健康を監視している、という印象が強かったが、お話の中でも子孫が遠方に暮らしていて一緒に暮せれば楽だが、長く住みなれた土地を出ることはできないと、か、老々介護とか認々介護とか、配偶者が先立ってしまって独居となっている方々の実態を聞いた。そういった方々が孤立していかない、ということも訪問介護のスタッフの役割であることをひしひしと感じる光景もあった。地域での包括的医療を展開していくにあたっては人材の収集、教育体制の整備などが課題であるし、医師不足の解消にあたっての病院側の工夫や苦悩も教えていただいた。診療所診察も訪問も、医師となってからこれほど患者に接した機会は無いのではないかとこのくらいお話することが出来たように思う。ある訪問看護師が「数は少ないけど、基幹病院に比べるとこっちの方が人間をちゃんと見ているような気がする」とお話されていたことが納得できた。

初めてのことが圧倒的に多く、不安の方が圧倒的に多い中で今回の地域医療研修が始まりましたが、スタッフの皆様方、そして優しくかつ情熱的にご指導くださった諸先生方、一緒に研修できた同期のおかげで大変得るものの多い1ヶ月となりました。総合的に患者を診療できる内科になりたいという思いはまだまだ道半ばですが、これからの目標とすべき先生が多くいらっしゃり、そして地域のことにに関して多くのことを考えさせられました。本当にありがとうございました。